

「日立とすべての職場から男女差別をなくす会」

会員のみなさまへ

あちこちで紅葉の便りのきかれる美しい季節となりました。みなさまにはお元気でご活躍のことと思います。

日立神奈川争議は、去る7月29日、会社との間で和解が成立し、全面解決することができました。ここに争議解決をご報告するとともに、みなさまの物心両面にわたるご支援に深く感謝し御礼を申し上げます。

解決内容は別紙「御礼」や「声明」に書かれている通りですが、男女差別争議として特筆したいことは

(1) 原告4名全員が昇格昇給したこと

執務職2人は総合職に、技能職2人は指導技能員に

(2) 技能指導員(技能職1級指導技能員)は裁判で請求した通りの格付けを勝ちとることができたこと

で、1都2県の解決を上回る大きな成果です。

さて2000年9月12日、神奈川をのぞいて東京、茨城および愛知の1都2県の日立争議が解決した後、「日立とすべての職場から男女差別をなくす会」(以下「なくす会」という)の活動が正常にできなくなり、機関紙「たんぼぼ」が発行できなくなったため、みなさんにはその後の状況をお知らせすることができませんでした。そこで先ず、これまでのいきさつなど簡単に報告させて頂きたいと思います。

一昨年9月に原告9人のうち東京の原告5人は1都2県の日立争議団と一緒に解決し、裁判を取り下げました。神奈川の4人は日立神奈川争議団として他の神奈川の日立争議団と一緒に引き続き闘うことを決め、「なくす会」も引き続き神奈川の4人を支援することとなりました。

ところが、和解交渉を理由に1都2県が止めた法廷審理を再開させるための団体署名をめぐって、「なくす会」役員と原告の間で意見が分かれ、正常な活動ができなくなりました。

神奈川の争議団と支援共闘は「和解もたたかい」と位置づけ、和解交渉中も法廷闘争を続けるのは当然と考えていました。私たちは1都2県の解決後、裁判所に宛てた団体署名を取り組んで、審問再開を求めていこうと決め、「なくす会」に取り組んでほしいと提起しました。ところが、なくす会役員会は「今は会社を攻めるとき、団体署名は裁判所ではなく会社に出すべき」として、原告の要望を無視して「会としては取り組まない」と一方的に決定してしまいました。

そればかりか、「なくす会」の事務局長は原告の意見が全く記載されていない意図的とも思える議事録を作成し、原告の意見も聞かず了解もなく神奈川労

連も含めて関係者に配布しました。更に事務局長は、原告に相談もなく一人で神奈川労連に出向き、「なくす会は団体署名に取り組まない」と通告する始末でした。そして、神奈川労連はすでに全労連と一緒に解決しなかった日立神奈川争議への支援には是々非々の態度を取り、全面支援をしない状況になっており、「なくす会が取り組まない以上、神奈川労連も取り組まない」とし、私たちが要請行動を計画していた各県労連などに文書を事前に配布したため、全国行動ができなくなりました。

そこで私たちが事情を説明するために各県労連などを訪問すると、神奈川労連が組織介入だなどとして日立神奈川争議支援共闘会議から離脱していきました。神奈川労連の離脱により他の団体も支援共闘から離脱し、その後、私たちは運動面で大変な困難を背負うことになりました。

しかし、私たちは「なくす会」や神奈川労連などの支援のないなかでも団体署名に取り組み、それを持って裁判所に繰り返し要請した結果、2001年7月、1年3カ月ぶりに裁判を再開させることができました。再開された法廷闘争は2001年3月から始まった自主交渉を支え解決条件を引き上げる大きな力となったのです。このことから見ても、「なくす会」役員会の決定や事務局長の独断専行の行動の誤りは明白です。

「なくす会」の事務局長が私たちの意見をことごとく無視してきた事実はそのほかにも数え切れません。このような原告蔑視の事務局長のもとでは、会の正常な運営は無理と考え、正常に戻るまで「たんぼぼ」の発行や会議を見合わせたというのがこの間の経過です。原告蔑視の事務局長には、自らの言動を反省し謝罪すると共に、事務局長を辞任するよう求めてきました。しかし今もお原告の意見を無視して会議の開催通知を出すなど原告蔑視の姿勢は変わっていません。

私たちは東京の原告が解決した後も、裁判闘争や職場や地域の運動を強めました。これらを背景にして会社をして自主交渉による和解交渉に応じさせ、前進した成果を勝ちとることができました。そして支援共闘をはじめ多くのおみなさんのご支援で、1都2県を内容的に上回る解決をみることができました。

思えば大変な闘いでしたが、度重なる行動の要請にも快く応じてくださった大勢の方々の暖かいご支援により解決できたものと心から感謝申し上げます。

長い間、ご無沙汰をし、ご心配をおかけしたことにお詫びを申し上げ、みなさまのご支援に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

2002年10月

日立神奈川争議団